

平成七年度布教方針 まごころに生きる。

一月十七日早朝、兵庫県南部を中心に襲った阪神大震災は、未曾有の犠牲者を出すとともに、家屋や交通機関をはじめ、社会生活に欠かすことの出来ない施設等に壊滅的な被害をもたらしました。ここに、この度の災禍により犠牲となられた方々に謹んで哀悼の誠を捧げます。また、被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。

さて、曹洞宗では、平成七年四月一日公布されました管長告諭に基づき、宗侶、寺族、檀信徒が一体となつて、仏教徒としての日送りに精進されるようにと、次の通り平成七年度の布教方針が示されました。

- 平成七年度布教方針
- 正法の宣揚と曹洞禅の挙揚を願ひ、宗教情操を喚起し、宗門の教義に基づく合掌礼拝運動の充実をはかり、一仏両祖が示される「まごころに生きる」仏道修行を展開するために、本年度は次のごとく、布教方針を定める。
- 一、仏法僧の三宝に帰依し、一仏両祖を奉祀して、宗門の教えを学び、仏教徒としての正しい信仰心を育む。
  - 二、終戦五十周年を迎え、戦争の惨禍を想ひ、いのちの尊厳を自覚し、世界平和の実現を目指す。
  - 三、一人びとりの人権を尊重し、差別のない社会を築くために、精進努力する。

- 四、自然環境との調和をはかり、他を思い、「杓底の残水」の戒めのもと、もののいのちを大切にして、共に生きる道を実践する。
  - 五、第三次総授戒運動の最終年度にあたり、今後とも授戒会の修行を奨励し、受戒を勧め、戒の本義を伝える。
- 神戸市をはじめ、各地の被災地では、多くのボランティア活動が続けられております。曹洞宗でも、曹洞宗ボランティア会や、曹洞宗青年会が早くから活動に参加し、尊い菩薩道を行じておられます。私たちも、それぞれの立場で出来るかぎりの応援をしようではありませんか。

《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター  
〒722 尾道市東土堂町17-29  
TEL0848-25-2855

《印刷所》

印刷ショップ・イトウ  
TEL0849-31-6495

目次

・管区長退任、就任あいさつ	2
・宗務所長就任あいさつ	4
・まごころに生きる	6
・親子ゼンインサマーセミナー	8
・研修会に参加して	9
・人権学習	10
・禅フォーラム	11
・禅をさく会	12
・震災ボランティア	13
	14
	15

# 管区長退任ご挨拶



前 広島県宗務所長  
栗原 孝任

陽春の候、管区内ご寺院の諸老師には、ますますご清祥のことと大慶に存じます。

私こと

去る一月で管区長の任を了えました。在任中賜りましたご法愛に対し、心よりお礼申し上げます。経験が浅く不行届の多い私でありましたが、各宗務所長老師、統監老師を始めとする役職員の諸老師には、いつもご親切なご指導ご助力をいただき、お蔭様で無事管区事業を遂行することができました。管区集会を始めとする各行事の会場をお引き受けくださった各宗務所様には大変お世話様になりました。改めてお礼申し上げます。

一方、後継者問題に対する取り組みなど、課題をいただきながら、何ら具体化することができず申し訳なく存じています。

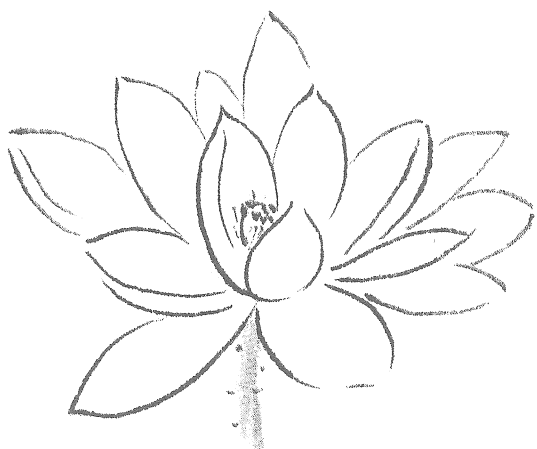
この二年間を振り返ってみますと宗門内外ともまことに事多く多難な時期でありました。社会のあらゆる面が激しく変動しています。

こうした中で、私たち宗教者も、ますます自己研修と協力が大切になると思っています。

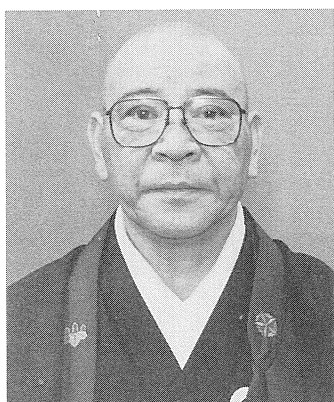
阪神大震災は多くの犠牲者を出し、たいへん限りでしたが、多くの教訓も与えます。

てくれました。被災者の多くの方が、人の心のあたたかさを感謝し、人は一人では生きられないことを痛感したと述べておられたのが心に残りました。

最後に、矢木新管区長老師、当管区のご活躍ご発展をお祈りし、管区内諸老師の法体ご堅固、ますますのご活躍を祈念申し上げます、ご挨拶といたします。



# 管区長就任ご挨拶



岡山県宗務所長  
矢木 亮司

想像を絶する大きな被害をもたらしましたこの度の阪神大震災によって、尊い命を落とされました多くの犠牲者のご冥福を心からお祈り申し上げますと共に、罹災なさいました大勢の方々の一日も早い復旧を祈念し、お見舞いを申し上げます。

さて前管区長栗原孝任老師が、その任期中に卓越した手腕を発揮せられ、数々の業績を残され、任期満了でご退任なさいました後を受け、不尚の身をも省みず、平成七年一月十五日付をもって就任させていただきます。

さて管区行政に当たられ、たいへんなお世話をいただきました前管区長老師並びに広島県宗務所役職員諸老師のご労苦に對しまして、衷心よりお礼申し上げます。

従来からの、管区長職は各宗務所長の輪番で、一期二年間職務を務めるという申し合わせによりまして、この度その職を引き継がせていただいたわけでありませんが、力量不足、修行未熟の私にとりましては、その職責は余りにも重く、先行きに大きな不安を感じております。幸いにして、経験豊富な管区内所長老師をはじめ役職員諸老師方、教化センター統監老師並びに職員諸老師、更には管区内全ご寺院方丈様方の強いご叱正とご助成をいただけますならば、管区諸事業の円満な運営に、岡山県宗務所を挙げて、懸命の努力を致す所存でありますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

現在管区が執り行う主たる行事は、曹洞宗宗門護持会中国管区集會、中国管区布教師協議会並びに講習会、管区内宗務所並びに教化センター役員人権学習会、管区布教委員長会であります。その他、教化センターとの密接な連携を保つてのセンター行事への参加協力、管区内各宗務所との緊密な提携等も大切な業務であると考えます。

管区行事は、その運営に当っては当該宗務所でお世話させていただくわけでありますが、従来より行事会場は、それぞ

れ宗務所持ち回りで行っておりますので、会場となりました宗務所諸老師には、たいへんなご苦勞をお掛けすることになります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今、宗門は、現代に生きる人々の心を大切にする布教の合言葉として「二十一世紀へわたしとあなたの思いやり」を、実践の基本的なスローガンとして「人権、平和、環境」の諸問題に取り組んでいます。奇しくも今回の阪神大震災は、宗門の掲げております布教理念を大きく発揮せねばならぬ場となりました。すでに宗門、各宗務所、青年会、SVA等々の組織で沢山の義援金が寄せられ宗門寺院の復興並びに一般被災者の方々への立ち直りに資せられていることは、本當に通りであります。又青年会、SVAを中心とした救援ボランティア活動が今も献身的に続けられていることには、本當に有難く、頭の下がる思いであります。

一日も早い復興を心より祈念申し上げます。おわりに、管区内諸老師の法体堅固と益々のご発展を祈念致しまして管区行政にご法愛を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶と致します。

# 宗務所長就任ご挨拶



広島県宗務所長  
垣井 龍雄

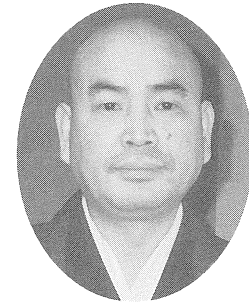
## 「くずれぬ平和を」

昨年暮れの宗務所長選挙に当りましては、県内各方面よりご推挽を忝うし、無投票当選の栄を与えていただきました。厚くお礼申し上げます。良き宗務行政遂行の為に、ご支援ご法愛を賜りますようお願い申し上げます。

梅花流全国奉詠大会も、昨年暮れに実施運営マニュアルも出来あがり、本県全国大会実行委員会、同小委員会の決定内容に従って、本庁との連絡調整も多くなつてまいりました。県内参加者は七百二十名、地元役員としてお手伝い下さる方も教区長様のお世話により約七十名、寺族の方二十名余が決定し、他に本庁、特派師範、教化センター、宗務所などで運営されます。

特に今大会は、管長狛下、永平寺貫首狛下を迎えて、終戦五十周年記念平和法要が勤まります。戦争犠牲者の追悼と共に、平和公園内、峠三吉の歌碑にある、終わりの一節ですが、  
「にんげんの／にんげんのよのあるかぎり／くずれぬへいわを／へいわをかえせ」の、「くずれぬへいわ」の実現のため、

めに、戦争とかかわった自己を深く見つめ、どの国がかかわっているにせよ、戦争で地球環境を含めた「いのち」を奪うことに反対する勇氣を自分の中に確立することがこの平和祈念法要に連なる者として必要ではないかと思うのです。全国からの参加者に、広島大会に参加して良かったといっていたら、地元の関係者一同努力してまいりたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



山口県宗務所長  
藤井 太祥

尊堂諸老師ご清祥にてご接化のことと法幸至極に存じます。

この度、所長改選に伴ない不肖拙儀引き続き所長職に就任させて頂くことになりました。各位のご法愛を賜りますようお願い申し上げます。

さて、各々の寺にはそれぞれの悩み、当面の解決しなければならぬ問題を抱え、地域には地域での問題を抱えているのが現状であろうと思っております。宗務所としても、皆様のご要望に応えるよう努力してまいります。行政的な面と、

布教教化という大きな課題を抱えているのであります。基本教化の面は、宗務庁に依存し布行されなければなりません。やはり地域対応の具体布教については、お互いが切磋琢磨して対応していくことも重要だろうと思っております。お互い教義の基本を堅持しながら、現在に生きる布教教化に対応していきけるように、智慧を出し合い推進していききたいと念願しています。



鳥取県宗務所長  
中井 雅由

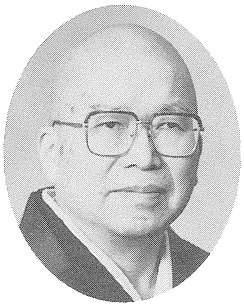
山陰霊峰大山の白雪はまだまだ深く、春の季節を待つ、この頃です。先に兵庫県南部を襲った大地震は想像



島根県  
第一宗務所長  
小川 昭道

を絶する被害をもたらした。犠牲になられた方々には心から冥福をお祈り申し上げ、避難生活をされている人々に対してお見舞いを申し上げます。  
さて昨年の暮れ十二月全国一斉に宗務所長改選に伴い当県下大方ご老宿の厚いご支援を仰ぎ無投票で当選させていただきました。もとより浅学非才を省みず大任をお受けいたしました。法幸無尽の至りでありお礼申し上げます。  
向後四年、宗議老師をはじめ、管区教化センター役員各位、所会議員各位、管内のご寺院各位のあたためたいご指導と適切なご助言を賜りながら一生懸命努力したいと存じます。  
幸いにも宗務所職員のご協力を頂き共に誠心誠意宗務所行政全般に亘って精進致す所存です。  
最後に中国管区教化センターの益々のご発展を祈念申し上げ、各諸老師のご指導をお願いして就任のご挨拶と致します。

麗らかな春の訪れに心なごむ好季節、尊台老宗師愈々ご健勝にてご化導専一にあらせられますこと、誠に慶賀至極に存じます。



島根県  
第二宗務所長  
佐瀬 道淳

さて先般宗務所長改選にあたり、小僧儀管内尊老宿のご推挽を被り薄徳少智をも顧みず、萩野前所長の後を受けてその名を汚すこととなりました。これ全く管内宗師各位の厚いご道愛の賜物と、感激に堪えない次第でございます。  
特に今年は終戦五十周年の区切りの年であり、私達は宗侶としての自覚を照らし「平和への誓い」を胸に「人権、平和、環境」問題の推進、特に人権上の諸課題の促進、教化活動の推進を現代社会にアピールせねばなりません。そして同時にこの重大使命を担う人材養成、宗侶養成の教育の必要性を痛感致しております。  
この上は仏祖の傳統を奉じ、不惜身命正法の挙揚と宗門の隆昌に精進致し、管内教化に勤め、以てご法愛の恩徳に報いることを誓願致しておる次第でございます。  
何卒、倍旧のご道愛を賜りますようお願い申し上げます。茲に飲んで就任のご挨拶と致します。  
末筆ながらご法体の弥々ご堅固のほどお祈り致します。

この度、宗務所長の重責を負うことと

なりました。改めてその責任の重さと、わが身の非力を顧みて身の引き締まる思いを噛みしめています。  
宗務所勤務の経験もなく、教区長一期途中での就任ですので、戸惑いの多いことは当然ですが、多少わかつている積もりでいたことさえ、実際にその掌に当たって見て初めてわかることも多く、とにかく、謙虚に初心に一から勉強して行きたいものと決意を新たにしています。さりながら、いくら力んでみても非力は非力です。私は私の歩幅で歩むしかないと存じます。余り肩に力を入れず、しかし、その任は精一杯果たしてまいり所存ですので、何卒皆様の暖かいご支援ご法愛を賜りたく切にお願い申し上げます。  
今日、宗門を見ても管内を見てもさまざまな問題が山積みしています。いや、寺院を取り巻く問題も、随分厳しいものがあります。檀信徒も世代が変わるに伴って、寺に対する認識や寺内の者に注がれる目が大きく変わりつつあります。  
だからという訳ではありませんが、先ず何よりも大切なことは、私共の日常生活の姿勢を正すというか、一定の厳しさを自らを律するものが根底になくしてはならない、と存じます。寺檀の信頼はそこに生まれます。その基盤の上に、ささやかでも教化の努力をして行く。一村一品運動ではありませんが、参禅会、梅花講、写経会、子ども会、婦人会、寺報、ご法事の後の五分間法話、伝道板の設置、ハガキ伝道等最低でも何か一つ一ヶ寺一教化運動のようなものが展開出来たらと念願しています。

## 誌上法話

## まごころに生きる

今年の正月三日間、広島市内の映画館で、連日満員の盛況であったのが、寅さんの「男はつらいよ」と「釣りバカ日誌」であったそうです。若い人にも大変な人気で、どうしてこのような映画を見るのか、との問いかけに、「ホットして気が安まる」といっております。この寅さんシリーズが最初に製作された頃は、時恰も神武景気、岩戸景気といわれた時代で、この間流行したのが、三種の神器（テレビ、冷蔵庫、洗濯機を持つ一人前）や、家つき、カーつき、ババ抜きということばです。ダイナミックな経済成長により、日本は世界の経済大国になりました。

しかし家族を中心にした人々の生活様式や、人間関係を急速に変容させ、大事な思いやりの心、優しい心、家庭や地域のぬくもりは、社会の片隅に押しやられたようです。

ただ昨年末から続いた暗いニュースの中で、大江健三郎先生の、ノーベル文学賞の受賞は、日本の心が世界に評価され

たことで、暗夜に燈を得た思いでした。帰国後、光さんという知能障害をもつ、ご長男のお話しをされました。世間の人は、障害者に光をというけれど、障害者が光そのものである。これからの親子関係は、社会的、国家的、全地球的視野で考えなければならぬ、最も大切なことは、親子が同じ目的をもつこと、それは尊い世界にそこがれをもち、願いをもって生きる信仰をもつことだ、といわれたことが心に残ります。

「人々は道器」すべての人が仏道を行ずることのできる、尊い存在であり、法も宝、宝も法、宝というのがまさしく、まごころであるならば、誰しも自未得度先度陀の心がおきれば、それが菩薩行の実践となり、そのまごころは、本来生まれながらに、具わっているものだということを、しみじみ感じさせられたのが、悲惨な阪神の大震災のできごとでした。

都会地特有の共存意識の片鱗すらない、日常の挨拶もろくに交したことの無い人



達が、協力し助け合って、救済と復興に、心魂を傾けておられる姿は、菩提道心のあらわれそのもので「同じ家並みの中で、母が埋もっているのが気になりながらも、声のする所から助け出そうと、自他心を一つにして救出し、五日目にしてやっと掘り出した時には、もう事切れておりました。」と涙ながらに語られた映像は、菩薩の姿を垣間見る思いでした。

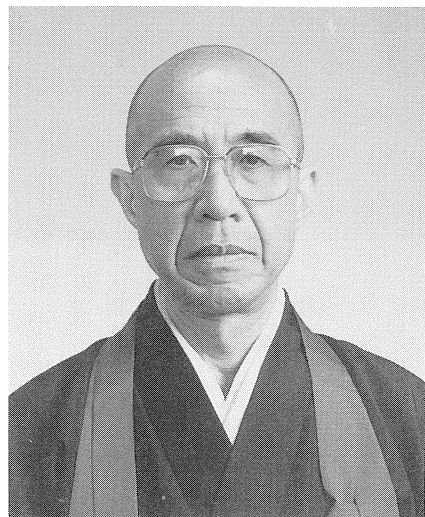
人の為と書いて偽りと読む字がありますが、世の為、人の為と言いなながら結局自分の為であったのか、と思うことが現実にはあまりにも多くあります。

そんな世の中で、即救済の実践活動に入られた人々、それがお金であれ、品物であれ、労力であれ、自己と他人の間に隔壁なく、平等という認識にたつた願行は、仏祖の証悟に通じるものがあり、いたわりとか、思いやりの心も、かかる認識に基づくものが、本ものだということを、痛感させられました。

被災地芦屋に住む姪から「この地震で、人のありがたさ、水のありがたさを身をもって体験しました。温かいお心遣いに報いるよう、がんばります。」という葉書が届きました。

六趣四生に転生することになっても、その輪転の因縁が菩提の行願となる。とのお示しがありますが、何時突発的なことがおこるかも知れぬ、無常変化の人生であるだけに、まごころを絶対のよりど

ころとして、生きたいものであります。自己のはからいをなくし、純一無雑で他の為によかれと願い、真心のはたらきになり切る時、自他融合し仏の生命のはたらきができるわけで、復興の中でも、一法窮尽如来の光明として、人のまごころが渦まいていくことを、只ありがたく思います。



中国管区教化センター  
統監

宮田 玄洞



間の別れ、繰り返すたびにこの言葉が私の心に強く刻まれていくように思えてなりません。  
「手を合わせ やさしい心で 毎日を」

サマーセミナー十周年おめでとうございます。十年とひとくちにいうけれどもその間のスタッフの方たちの苦労は並大抵のものではなかったと思います。本当にご苦労様。心より感謝申し上げます。二年ぶりに参加してみても驚いたのは子ども達の成長ぶり、いやはや年頃の少年少女たちの変身ぶりにはまいりました。一方、自称『ウォークラリーの神様』長曾先生はといえば、今年肝心のウォークラリーがないのに加えて鬼よりこわい山の神と一緒に参加しているとあつてパワー半減、自分の歳を数えつつ、つい落ち込んでしまう長曾先生なのでした。さてさて、めでたく十周年を迎えたサマーセミナー、これからどんなふうに進んで行くのでしょうか。今から十年後、二十年後、はどのようなセミナーになっているんでしょうねえ。サマーセミナーが三十年を迎えたときに、はたしてひろ先生の髪の毛はまだ無事に生息しているのでしょうか。渡辺先生は相変わらず美しく、そして依然として元気よく飛び跳ねていられるのでしょうか。林先生の手品の腕は大丈夫なんでしょうか、手がふるえてしまうのではないかと、ほかあ心配だなあ。おちやかけ地蔵とやまのたぬきの腹はま

### セミナーの未来を占う

指導員 長曾 竜生

だパンクしないであろうか。村上先生の自慢の胸毛は白くなつていやしないか。それよりも長曾先生はまだ生きています。そんな心配ごとはもうやめましょう。楽しみなことはと言えば、今から二十年くらいたつと、参加している子ども達も母親や父親になつていくかもしれないのですよ。この子たちが自分の子どもを連れてセミナーに参加するようになったら、なんて想像するだけでも愉快じゃありませんか。門脇法子ちゃんの娘のおてんばぶりとか、村上由記ちゃんの息子のだだつこぶりとか、あの岩成俊策が父親になつたとは！おお！そーいえばあの時カヌーでひっくりかえつた娘も母親になつたか！なんてハハハ笑えるぞ、これはしっかり笑える。よし！先生は三十周年のセミナーになんとんでも参加するぞ！絶対するぞ！とビックリマークを連発しつつ……また来年も会おうな。



## 親子ゼンイン 第十回 サマーセミナー IN 松江

### 松江にて

村上 泰英 (高二)

今回もサマーセミナーの三日間は充分に楽しめました。前回休んだ身ですので、みんなに会いたいという気持ちがあつていた分だけ、みんなより余計に楽しめたのだと思います。ですからセミナー参加の醍醐味の一つである懐かしさも、より一層味わえることができました。初めての人は初めての人で希望感とそれに応えるかのように、満足感も味わえ充分楽しんでいました。このように楽しい人ばかりなので、セミナーの楽しみがより一層引き立てられるのであろうと思います。笑顔の集まりなので、何か心にほっとするものを感じました。

さて、今回の私は学生の身でありながら指導員に抜擢されました。以前から先生と呼んでいた方々と同列に並ばせて頂くのですからこれほどの緊張はありませんでした。が、その僕を支えてくれたのは、やはり笑顔でした。今にして思えば多くの不手際がありました。その陰にはみんなの協力がはつきり見えました。特に、班のみなさんにはお世話になりました。このありがたみは今でも鮮明に覚えています。これだけでも参加する意義が充分にあつたと思います。みんなとの生活を楽しみ、そして一年

# 曹洞宗婦人会中国管区研修会に参加して



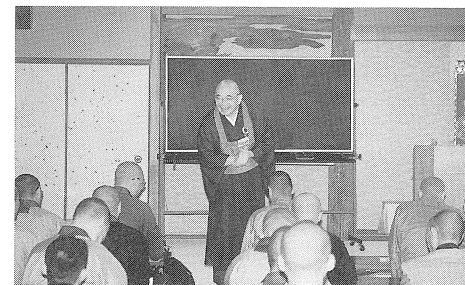
山口県宗務所婦人会会長  
**藤澤 つた子**

秋の山陽路、徳山市湯野温泉ホテル紅葉館に於いて、中央より小田原会長をお迎えし、一泊二日の研修会が行われました。参加人員百三十六名、中国五県の各地より集まりました。此の度は山口県宗務所婦人会が当番になり、中国管区教化センターのご指導のもと又、山口県宗務所の強力なご支援をいただき、みのりある研修会が出来たのではないかと思います。

講話「まごころに生きる」宮田統監老師、講演「爆笑と感動の婦人学」放送タレント榎本勝起先生、「人権学習」阿武孝太郎先生、笑いの中に、しみじみ思う人を傷付けないやさしさ思いやり、女性の力強さ等、この会に参加した倅せが、いつまでも持続しますようにと、祈らずにはおられませんでした。婦人会活動の体験発表として

小野田市岩崎寺婦人会 佐々木末子さん、阿武町太用寺婦人会守永華子さん、お二人の発表は会の良きリーダーとして、しっかりと活動内容のご発表でした。スライドでの発表は雪景色が印象的で七草粥が心に残っております。会員皆様の暖かいご協力に感謝致します、と共に今後感動のある人生、ユーモアを交えた生き生きた人生を歩みたいと願っております。婦人会のスローガン、広げよう信じよう美しい心のふれあいを求めて。

# 青少年教化指導者研修会に参加して



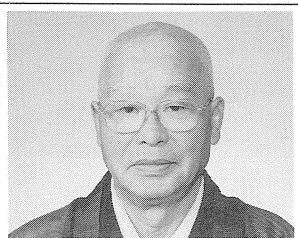
鳥根県興勝寺住職  
**木村 芳典**

平成六年六月二十三・二十四日の両日にわたり、この研修会に参加させていただいた。今回の会場は浜田市国府海岸そばの国民宿舎「千畳苑」で、ここに四十名の青少年の教化を担う宗侶が集まり、講師に阿部圭佑老師、益田レクレーション協会事務局長中村富美恵先生、島一人権擁護推進主事花崎良順老師をお迎えしての二日間の研修でした。

中村先生のご指導のもと、実習をかねたゲーム遊び。こういうゲームを子どもと共に行うには、先ずこちらが恥ずかしがらず、同じ童心に戻って、こちら側も楽しむ気持ちを持ってしないと、子ども達もなかなかゲームの中にとけ込めないのではないかと思いました。

又、阿部老師のお話しは大変参考になる内容のものでした。子ども達を対象にした会における注意点、アドバイスをわかりやすく的確に示して頂きました。そこで感じたことは当たり前のことかも知れませんが、「子どもの側に立って」ということでした。私達大人は、子ども達の中に入ってもつい大人っ気を出してしまします。しかし、子ども達には大人の我々には計り難い心の機微があると思えます。我々に大切なことは、その子ども達の心の機微を如何に探り、できる限りそこに近づくとではないかと思えます。青少年教化の第一歩はそこから始まってゆく様な気が致しました。そして、阿部老師の言葉をお借りすれば「親しいけど恐い指導者に、またやさしさと甘さ」の違いがわかる指導者を、私達共々に目指してゆきたいものと思えました。

一月十七日神戸市を中心に発生した大震災からすでに五十日、地震のために亡くなられた五千数百名の方々も四十九日の忌日を迎えられたわけである。心からご冥福をお祈りする次第である。この度の災害については当初より各報道機関から詳細な情報が伝えられているが、その中で目立つことは災害発生と同時に全国からいち早く寄せられた救援の手の実態である。特に数多くの若い人々の昼夜をわかないボランティア活動には目を見張るものがあり強い感動を覚える。色々な立場にある若者が、震災に苦しむ被災者の救援に寝食を忘れて献身する姿を見ると、彼等が持っている素晴らしい人間愛を感じる。同じ人間同志の仲間が呻吟している実態を見てはほっておけないという心情、そしてそれを直ちに行動に移していく実践力、損得抜き善意の奉仕、私は彼等の行動に仏の姿を見る気がする。「現代の若い者は…」と、ともすれば世間の冷たい批判を多く聞く当節の若者達が、この震災で見せてくれたすばらしい活躍はすべての国民に頼もしい若者として大きな感銘を与えてくれた。我が宗門においても曹青の皆さんからいち早い救援活動は、多くの被災者から多大の感謝を受けていることなど聞くに



**じんけん**

## 「おもいやりの社会をめざして」

岡山県宗務所  
人権擁護推進主事

**若林 正憲**

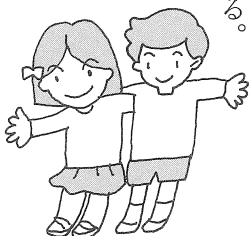
つげ、次代をになうすばらしい青年僧を持つことに誇りを感じるところである。この度の大地震において多くの若い人々によって示された数々の救援ボランティア活動は、彼等若者達が持っている人間尊重の崇高な人類愛の発露である。

来る二十一世紀は心の時代、思いやりの世界であるといわれている。世界あげて「人権確立」の重要さが叫ばれている。

宗門も過去教団が抱いて来た人権差別の実態が提起されて、この解消に向けての真剣な取り組みがなされているところであるが、さきの阪神大震災に対して多くの国民が示した実践行動を見るにつけ、仏の教えに従い衆生済度の実践行を第一義とすべき宗教者として、他に先駆けて何ができたかを自省するときいさかか面映ゆい気がする。人権の取り組みについても、自分自身はたしてどこまで正しい認識のもと、差別に対する自己変容が

どのようになされたか、又そこからどのような実践がなされているかを顧み見ると、まだまだの感を深くする。「人間平等」は仏教の根本理念である。釈尊の思想であり、諸祖連綿として受け継がれてきた宗門の基本理念である。「人間平等」は即「人権の尊厳」につながる。その昔、市井で差別に苦しむ民衆を見て一念発起、すべてを投げ打って衆生の済度に生涯を捧げ、仏教の始祖として仰がれる釈尊、その教えを忠実に受け継ぎ実践の中で挺身された各宗祖方の菩薩行を偲ぶとき、宗門寺院に身を置く者として一刻も早くちゅうちよすることなく、人権差別の解消に向けての実践行にふみ出す必要がある。そして人権啓発の先導者としての自覚と責任において仏祖の歩まれた菩薩行の跡を歩むことこそが宗教者としての道であり仏恩に報い奉ることでもある。

「仏祖への回帰」。これこそ今の社会がわれわれ宗教人に対して求めている最も大きな要望でありまた期待を寄せるところであると考えます。



# 禅フォーラム



平成六年七月十九日午後五時より、広島県民文化センター（広島市）に於いて「禅フォーラム」が開催された。  
この禅フォーラムは、平成六年度（長崎市・広島市・札幌市・東京の四管区四会場）と、平成七年度（残りの五管区）の二年間にわたり、曹洞宗の主催で開催されるものである。

中国管区では、広島市が世界で最初の被爆地であり、又被爆犠牲者五十回忌を迎える年にも当たり、宗門が提唱する「人権・平和・環境」というスローガンに相応しい地として、広島県曹洞宗の協賛をいただき、不特定多数（入場無料）を対象に宗務総長出席のもと開かれた。

今回のフォーラムは、コーディネーターに有馬実成師（曹洞宗国際ボランティア会事務局長）、パネラーに青木利夫氏（文教大学教授）、小森龍邦氏（衆議院議員）、チャニントン・多田氏（日タイ友好協会常任理事）の四名の方々から、それぞれの立場・経験・考えを伺いながら、人権・平和・環境について話が進められ、講師陣の幅の広さもあってか、私たちの日常生活からは見えてこない（テレビや新聞からもなかなか報じられない）側面も論じられ、聴講者もより視野を広めることが出来たように思われる。

討論が終わると、「禅をきく会」の様子があり、最後にこのフォーラムのまとめ

として宗門の姿勢を述べた「平和への誓い」が朗読され閉会した。

平和への誓い  
曹洞宗は、真の平和の実現にむけて、不断の努力を積み重ねていくことを決意いたします。

人をして人たらしめるものは、まごころ（誠心）に生きることであり、その信念に基づいて行動することです。

わたくしたちは、戦争によって国の内外の人びとに甚大な犠牲と多大な迷惑をかけたことに、慚愧の念を抱き、二度と再び同じ過ちを繰り返してはならないと、心からお誓いいたすのであります。

全世界の平和は、おたがいに、その存在を認めあい、信じ合い、尊敬し合い、自由と平等のもとに抑圧や差別を排除し、仏の智慧と慈悲に導かれ、深い信仰に根ざした仏弟子としての行動実践を行うことによつてこそ成し遂げられるものと信じてやみません。

一仏両祖のみ教えに基づいた正しい信仰生活を確立し、生命の尊さの自覚、人権の尊重、環境への配慮、共に生きる平和な世界をめざし、ともどもに大いなる歩みを力強く進めてまいりましょう。

本日ここに一大誓願を立て、すべての人びとと共に、世界の平和を祈念いたします。

規模の人集めは大変なものがあります。この会を通して多くの人が禅に親しむ場を得ることは、まことに意義深いものがあります。必ずしも大規模な開催でなくても、たとえ、百人二百人の小規模であっても、徐々にその輪を広げていく、新たな企画を検討していくことも必要ではないかと考えます。

合掌

# 禅をきく会を終えて

島根県第二宗務所 教化主宰

岩田 泰成

平成六年十一月二十五日、島二宗務所としては、四年ぶり二回目となる「禅をきく会」を檀信徒研修会と合わせ、出雲市民会館に於て開催致しました。前回の資料を参考にしながらの準備であったが、檀信徒研修会を合わせ行った為、本庁提出の参加者名簿等があり、受付体制が新たなものとなりました。

当日は、役員九時集合にて諸準備、リハーサルを行ない、午後一時の開場を待ちました。早くは十二時過ぎには会場入りもあり、多数の参加が期待出来ました。受付の方は、受付場所も数カ所、檀信徒、一般と分けていたので比較的スムーズに進んだ様に感じました。

定刻一時半には開幕、会場全体が薄暗く、舞台中央でスポットライトに浮かび上がった坐禅人が一人坐る中、数分間のナレーションが朗々と流れ、木版一通にて荘厳な雰囲気での開会セレモニーを終え一旦閉幕、開会の辞に続き、主催者を代表して澤宗務所長の挨拶、引き続き、榎本勝起先生による講演の予定であったが、当日は境港市で先生の人気番組「榎本のおはようさん」の生放送があり、その後、TBSのスタッフとの打ち合わせを終えてからの会場入り、道中思わぬ渋滞となり、所長挨拶の最中には、まだ到着されずヒヤヒヤする一時も、しか

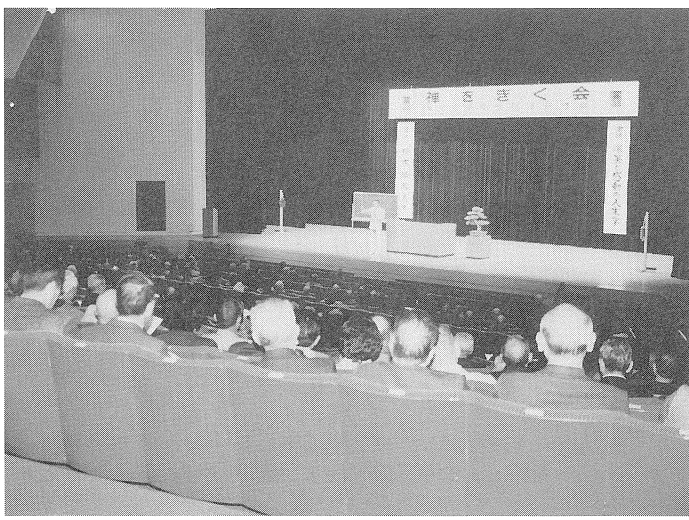
し、挨拶終了間際に到着され、無事講演の幕開きとなりました。

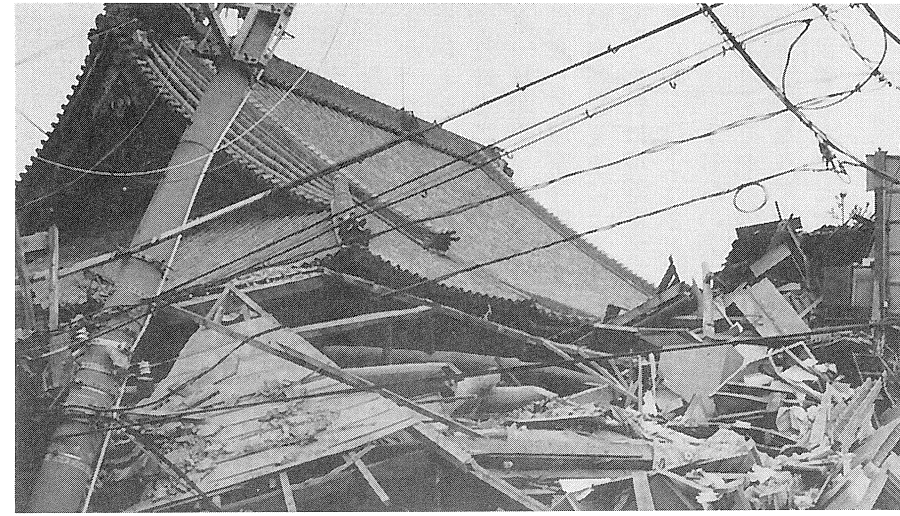
「爆笑と感動の人生学」と題する講演は、さすがに講演の名手との呼び声が高いと言われるだけあって、身近かな豊富な話題を卓越した話芸で聴衆を笑いと感動に巻き込みながら、笑顔のすばらしさ、豊かな感性を育てる、人に対する思いやりの大切さをお話しになり、予定の一時間半がまたたく間に過ぎました。

休憩をはさみ椅子坐禅は、舞台上に設けた「単」に、教化センター宮田統監老師を中央にして、十人の坐禅人が坐し、木版一通にて開幕、統監老師の禅話、坐禅指導と続き、止静三声で参加者一同、数分間ではあったが静寂な中での坐禅修行でありました。

最後に立花宗務所護持会長の挨拶で閉会、わずか二時間半の日程ではありましたが、参加者一同、講演、禅話、椅子坐禅を通じて、禅に親しみ、自分を見つめる一時を持っていただけたのではないかと思います。

今回の禅をきく会は、千人の参加者を目標にしていましたが、約八百人と目標を下回り、人集めの大変さを知りました。平成五年度からは、山陰、山陽の二会場に分かれ、三年に一度の開催となりましたが、山陰の小都市で三年に一度、千人





中国曹洞宗青年会会長  
島根県雲松寺住職

齋藤 周三

石見曹青は救援ト鉢として一月二十八日に決定した矢先、中曹青より現地ボランティアの要請があり急拠三名が現地へ行くという事に対応した。二月六日、八日までの三日間であったがそれぞれ貴重なボランティアであったとつくづく感じ

### 炊き出しボランティア

広島県長福寺副住職  
元教化センター責事 飯島 孝文

炊き出し場所の周囲は、二階建ての一階がつぶれた家などがどこまでも並んだ瓦礫の山、また道路に向かって傾いたビルがある状態で、どこもが危険地帯のようでした。

この避難所自体、完成間近の建物で炊き出しを配る場所も鉄筋がむき出しです。その鉄筋につまづき転げお年寄りもいました。避難所でさえこんな状態かと思うと複雑な気持ちです。

「とにかく暖かいものが食べたい。」という要望が強いので、野菜たっぷり汁を用意し、お湯は常に沸かしていました。

又、近所の公園には、避難所に入れずテント生活をしている人もいます。無料で野菜を配ることを告報すると山のようであった野菜がアツという間になくなり、ます。これには、現在の状況の深刻さを思い知らされました。

一ヶ月ほど過ぎて別の避難所に行きました。この被災者は千名を超える人数です。しかし、炊き出しの設備は全部持ち込みで、鍋、釜、薪は勿論、まな板、包丁まで持参しないと何も出来ない状態でした。

最初に行った避難所では、被災者自身が交代で炊き出しができる状況にまでな

## 阪神大震災ボランティアに参加して

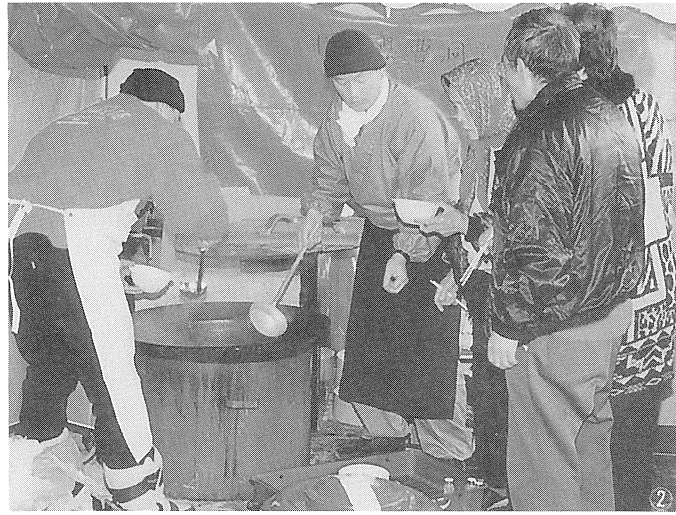
た。まず事前の準備として物資、通行許可の申請、ボランティア保険の加入、自分達の食糧の確保、寝ぶくろ等あわただしく整えた。

二月六日早朝、八王寺へ到着、午前六時本部にて給食活動の状況を聞き自分達の行先の確認、初日は長田区水木小学校昼食六百食分、二日目は新長田郵便局へ素麺二百食分運搬、最終日長田区二葉小学校昼食八百食、以上三日間のボランティアの状況である。自坊へ帰る途中やれやれやっと帰れると心の中で安心したり、もう少しやりたかったという思いと、複雑な心境であった。後から思えば事前の準備をしている自分は大変充実したと感じ、永六輔氏のことばを思い出した。生きていくという事は、誰かにカリ(借)を作ること

生きていくという事は、そのカリを返していくこと  
この精神で今後は少しづつ充実した気持ちを持って生活していかなければと思

う。まだまだ被災地では避難されて不自由な方がたくさんおられる現状であります。石見曹青又個人的にも今後、色々な要請に対応できるように、待機していきたいと存じます。

っています。場所によって状況の差が大きく、まだまだ大変な状態のなか帰途につくのは後ろ髪ひかれる思いでした。今回の大震災からの復興は予想もつきません。しかし、炊き出しを受けるだけの状態から、目の前で野菜を切ったり料理をしている様子を見て、自分達の食事は自分達でつくらねば、というやる気が湧いてきたということも聞きました。三日づつ六日間という短い間でしたが、少しでも役に立ったように安心していきます。又、「人とのふれあい」の大切さを考えさせられました。



参考に物資の内容は次の通りです。  
大根百本、かぶ四十本、人参八十本、白菜三十個、ジャガイモ百五十個、玉ねぎ六十個、長ネギ二百束、味噌十キロ、豆腐五十丁、あげ三十枚、玉子三百個、キャベツ六十個、さつまいも三十個、食器三百六十個、割り箸千膳、栄養剤五十本、アメ袋三十個、タオル、バスタオル等五百枚。



## 次の世代へもしっかりした情報を渡せますか？

お寺の情報もコンピューターの時代ですよ、ご住職！

長野県第一曹青会・監修・推薦

寺院情報システムVersion3.0

檀信徒情報整理システム

(世帯・現在帳・過去帳)

寺院会計システム

(寺院会計・護持会管理・寄附金管理)

霊園管理システム

# 副寺

寺院情報システムVersion3.0「副寺」について、詳しい資料を用意しております。

資料請求・お問い合わせは ☎0088-22-2419 寺島・増田まで

不在の場合はアシスタントの島田が受けたくまわります。

TECHS エムテックス販売株式会社

本社 社/〒331-12長野市松代町東条354 ☎0252-76-2413 Fax. 0262-73-2417  
東京事務所/〒160 東京都新宿区西新宿9-5-3



# 教化センター

## 平成七年度事業計画

- 一、全国教化センター役員中央協議会 (四月五～七日)
- 二、センター企画委員会 (四月十七日)
- 三、曹洞宗婦人会中国管区研修会準備会 (四月十七日)
- 四、教化センター報十一号発刊 (四月)
- 五、管区布教師連絡協議会 (五月十六日)
- 六、青少年教化指導者研修会 (六月十九～二十日)
- 七、第十一回親子ゼンインサマーセミナー (七月二六～二八日)
- 八、中国管区布教師協議会・講習会 (九月六～七日)
- 九、布教師特設検定(中国・四国・九州) (九月)
- 十、禅をきく会(広島県) (九月十三日)
- 十一、管区集会 (九月二七～二八日)
- 十二、全国教化センター役員中央協議会 (十月)
- 十三、曹洞宗婦人会中国管区研修会 (十月十二～十三日)
- 十四、センター運営・企画委員会 (十月三十一日)
- 十五、管区役員人権学習 (十一月二八～二九日)
- 十六、教化センター報第十二号編集会議 (一月)
- 十七、中国管区布教委員長会議 (二月二日)
- 十八、島根県布教講習会 (二月)
- 十九、禅をきく会(島根県第一) (三月三日)
- 二十、集中伝道 (未定)

### セ ン タ ー 一 役 職 員

統監	宮田玄洞	阿弥陀寺	〒725-02 豊田郡東野町2276	☎08466 5-2061
主監	用元一雄	長光寺	〒722-24 豊田郡瀬戸田町垂水830	☎08452 7-2467
賛事	村上邦雄	摩訶衍寺	〒722-01 尾道市原田町梶山田4338	☎0848 38-0656
賛事	宇田治徳	雙照院内	〒723 三原市田野浦町1218	☎0848 62-4550

### お知らせ

今年三月一杯で、一期(二年間)務められた山本昌男賛事が、センターを去られました。今後は、地元での活躍を祈念します。

後任賛事には、四月より広島県第四六番雙照院副住職宇田治徳師が任命されました。管内ご寺院様のご指導よろしく願います。

